

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇39



大学全入時代、えり好みしなければどこかには入れる…。そんな報道が数年前にありました。しかし、文科省によれば、2008年度の全国の高校等進学率は約98%、大学等進学率は約53%です。どうやら「大学全入」とは、将来的にも大学へ

全入時代

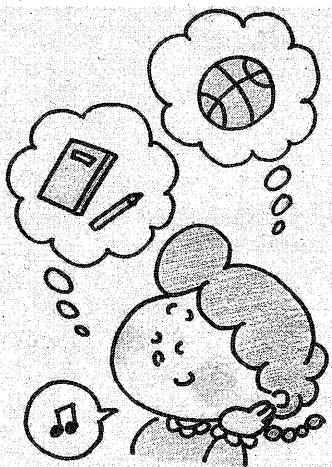
進学をする子どもの数が各学年の5割程度で止まるという意味のようです。

今夏、帰省中の卒業生らと酒を酌み交わしながらの近況報告の機会を得ました。その席で、甲子園を目指し野球に打ち込んでいた大学2年生が「ごぶさたしています！」とあいさつをしてくれました。「立派になったね。今、何やってる？」と聞くと「えっ、飲んで

学力低下を招く懸念も

問われる自己選択・責任

by yoriko



「野球は？」と話を続けました。「もうやってないっス。やっと話がかみ合い「甲子園の決勝見た？ 日本一は1日どれくらい練習するのか。休日でも8時間はやるよね」と続けたら「えっ、やらないでしょう！ 8時間は無理っスヨ」と。私は驚いて「何で君が言えるの！」と、ついつい声高に世界一や日本一を目指すことの大変さを説き、「君たちだってあんなに練習しても甲子園に出られなかったじゃないか！」と振ってみました。すると「あっ、今O入試など推薦枠の拡大、入試の地方会場の

信あります」とあっけらかんと「やればできます！」と笑顔まで見せてくれました。また先日、不登校で通信制高校に転校し高3になった男子から進路先を変えたいとの相談を受けました。「決める手は、訪問入試というきめ細やかな入試制度です」と。「訪問入試？」私は自分の耳を疑いましたが、確かにパンフレットに「訪問入試」と。「普段の君が知りたいから訪問して入試やろうねと言ってくれたんです」と彼は教えてくれました。全入時代の到来は、大学などの乱立、定員割れ、低学力化などが心配されています。A選抜・自己責任」が問われています。子どもはやがて巣立っていく

設置、回数の増加…大側はさまざまな対策を講じながら「良質な学生」との出会いの機会を探っています。一方で、受験での競争が緩くなり「この子の好きなことをやらせたい」という親のニーズに沿った流れを歓迎する向きもあります。高校に進学し、子どもが望むならさらに上の学校へ。そして一流企業までは望まないが、安定はしてほしい…。それが昨今の親心の一般であり普通なのかもしれない。

実は、進学先をどう選ぶか、そこで何を学ばせたいのかという問題は、ご家庭の「自己選択・自己責任」が問われています。子どもはやがて巣立っていく

ます。そして、一人で生きること大切な人たちの別れを経験します。子どもの独立と自尊を支えるのは未知の問題解決能力である学力だと私は考えています。子どもの「生きる力」こそが子育ての希望だと思えます。(畑山篤 志学塾塾長)

小学校の(五つが「セコロ」を作どした児童キスをしよ女性教師(「殺すこと」るクイズをテランから相次いで発の問題指導があるのかからは個人えた構造的する声か聞「最近の配と若手本代、40代がい」と話す内の小学校の世代の退採用が進みのバランスれてきた。「年配のが継承され子どもに導に走って験の浅い教

最近発覚した教師の主な問題行為

愛知県岡崎市の小学校・男性教師(45)

▶ 算数の授業中で「18人の子どまを

ニュース なぜなに

太平洋戦争で日本が負けた後、ソ連が軍隊を送って支配するようになり、今はロシアに引きつがれています。

日本は四島を返してほしいと求めています。

けれど、ロシアは戦争の結果、自分のものになっ



教会の前に立つロシアの